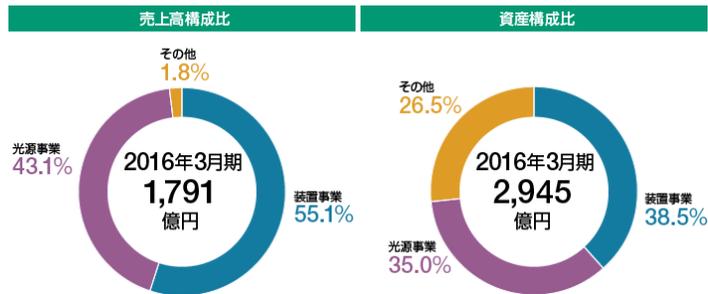
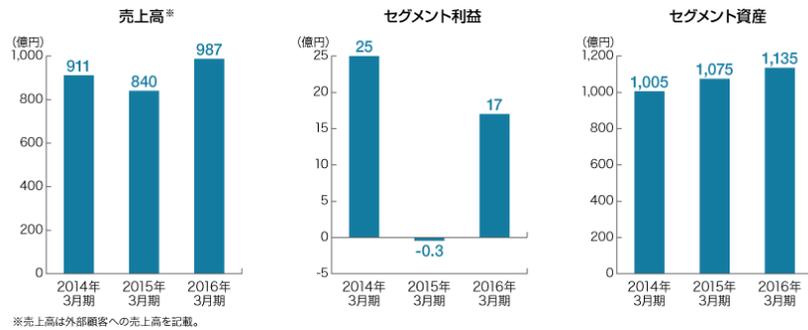


事業概況

At a Glance



装置事業



○ 映像装置

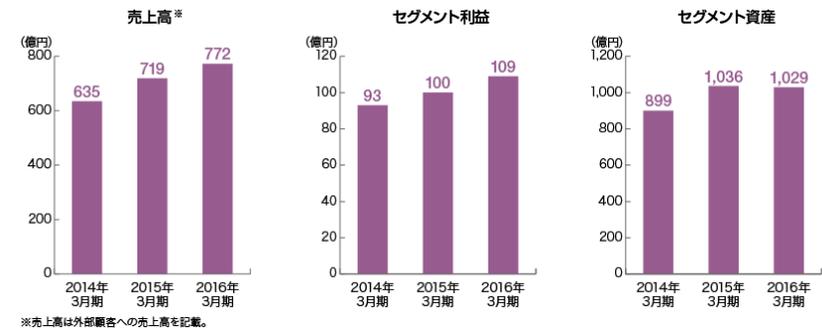
- デジタルシネマプロジェクター (DCP)
- 一般映像用デジタルプロジェクター、コントロールルーム、シミュレーター、デジタルサイネージ、バーチャルリアリティシステム

○ 光学装置

- 半導体、FPD、電子部品製造用各種光学装置 (露光装置、光洗浄ユニット、光配向装置など)
- 紫外線治療器など医療機器
- 半導体検査・開発用EUV光源装置

事業概況

光源事業



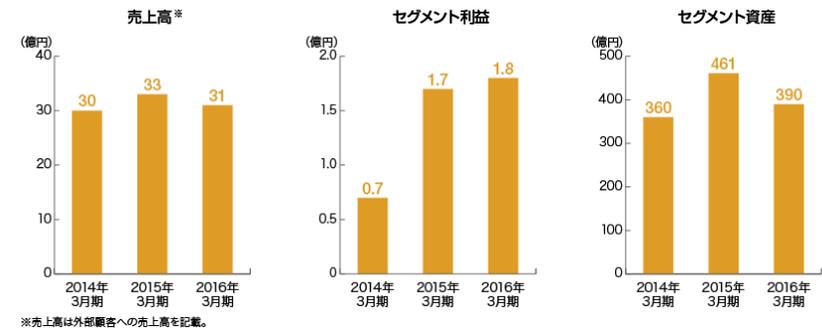
○ 放電ランプ/LED・LD

- 半導体、FPD、電子部品製造装置用光源
- シネマプロジェクター用、データプロジェクター用、OA機器用、照明用および産業用光源

○ ハロゲンランプ

- OA機器
- 照明 (商業施設、舞台・スタジオ、特殊照明など)
- 産業用ヒーターランプ

その他



- プラスチック成形用途、周辺機械
- 産業機械、システム
- その他

事業概況

装置事業

基本的戦略

分野	主な製品	基本戦略	
		目標	施策
映像装置	<ul style="list-style-type: none"> デジタルシネマプロジェクター (DCP) 一般映像用デジタルプロジェクター、コントロールルーム、シミュレーター、デジタルサイネージ、バーチャルリアリティシステム 	トータルソリューションビジネスの拡大	<ul style="list-style-type: none"> ソリューション提供型ビジネスモデルの確立 安定収入モデルの確立
光学装置	<ul style="list-style-type: none"> 半導体、FPD、電子部品製造用各種光学装置 (露光装置、光洗浄ユニット、光配向装置など) 紫外線治療器など医療機器 半導体検査・開発用EUV光源装置 	経常的な黒字化を目指した構造改革	<ul style="list-style-type: none"> グループ戦略の見直し

当期の業績

映像装置分野は、一般映像が微増収にとどまるも、中国を中心とした新興国でのシネマスクリーンの新設が継続していることを受け、デジタルシネマプロジェクター (DCP) の出荷が増加、また、レーザープロジェクターの採用が進んだことなどから、シネマ関連事業の販売が拡大しました。

光学装置分野は、電子デバイス向け投影露光装置の販売が増加したことに加え、引き続き中小型液晶パネルの高精細化による需要によりモバイル用高精細液晶パネル向け光配向装置の販売が増加しました。

その結果、装置事業の売上高は前年同期比17.4%増の988億2千8百万円、セグメント利益は17億2千6百万円となりました。

今後の取り組み

映像装置では、DCPの販売台数はほぼ横ばいで推移する見込みです。また、ドルビーシネマの拡大によるレーザープロジェクターの販売は増加を見込んでいます。さらに、シネマ、一般映像によるトータルソリューションビジネスの拡大を見込んでいます。

光学装置では、投影露光装置の台数は今期並みと考えていますが、中小型液晶パネルの高精細化に向けた需要継続により光配向装置の出荷は増加する見込みです。

売上高	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期 (計画)
映像装置	603億円	703億円	810億円
光学装置	212億円	259億円	280億円
照明装置他	23億円	24億円	25億円



事業概況

光源事業

基本的戦略

分野	主な製品	基本戦略	
		目標	施策
放電ランプ/ LED・LD	<ul style="list-style-type: none"> 半導体、FPD、電子部品製造装置用光源 シネマプロジェクター用、データプロジェクター用、OA機器用、照明用および産業用光源 	「収益性の維持」と「持続的成長」	<ul style="list-style-type: none"> 既存分野：シェア維持と製造コスト改善 新規分野：成長市場へ積極的に参入
ハロゲンランプ	<ul style="list-style-type: none"> OA機器 照明（商業施設、舞台・スタジオ、特殊照明など） 産業用ヒーターランプ 		

当期の業績

放電ランプのうち、露光用UVランプは価格競争の影響や半導体分野、液晶分野ともに長寿命タイプの採用が拡大していることから減収となりました。一方、シネマプロジェクター用クセノンランプは中国などの新興国を中心にDCPの総設置台数が増加し、増収となりました。固体光源ではM&Aにより半導体レーザー事業、LED事業を拡大したことで増収となりました。

ハロゲンランプはOA用が新興国の景気低迷の影響を受けて減収となりました。

その結果、光源事業の売上高は前年同期比7.6%増の785億7千4百万円、セグメント利益は前年同期比9.0%増の109億7千6百万円となりました。

今後の取り組み

放電ランプでは、固体光源は増収するものの、露光用UVランプ、シネマ用クセノンランプは価格競争などによる影響で、ほぼ前期並みか微減収で推移するものと思われます。

ハロゲンランプは、OA用が新興国の景気低迷の影響から減収となる見込みです。

売上高	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期 (計画)
放電ランプ (固体光源を含む)	576億円	634億円	635億円
ハロゲンランプ	142億円	137億円	130億円

